



岐阜空襲から80年、悲惨な歴史をくりかえしてはならない!

戦後80年。7月9日岐阜空襲の日を前に、「岐阜空襲を記録する会」や「岐阜市平和館をつくる会」にかかわってこられた篠崎喜樹さん(90歳)と中島裕子さん(学芸員)から平和についての想いをお聞きしました。篠崎さんは古くからの岐阜健康友の会員でもあります。



篠崎喜樹さん

再び戦前にしてはならない!

「岐阜県下の空襲により県民が受けた惨禍と戦時下の生活を県民の手で記録して、これを現代に問いかけ、さらに後世に伝え、再びこのような歴史を繰り返させないよう」に、真の平和を築くひとつの力となること」(「岐阜空襲を記録する会」規約より)をめぐり、「岐阜でも誰かやらなければいけない」と考え、当時高校教諭だったこともあり、教師仲間呼びかけ始めました。マスコミ報道もあり、市民の中で支援の輪が広がり、「岐阜空襲を記録する会」は浅野勇岐阜市長をはじめ岐阜市出身の9人の県会議員も加わって、1974年設立(代表は岐阜大学教授の山本堯さん)されました。

会の事務局長として、今年で50年になります。また、「岐阜市平和館をつくる会」の運動にかかわ



り、2002年1月「岐阜市平和資料室」オープンにつながりました。ともに、「悲惨な歴史を繰り返してはならない、再び戦前にしてはならない」という強い思いからでした。

10歳ときに空襲体験

長良国民学校5年生の時、空襲を体験しました。寝ていたところを起こされました。長良橋の北側が燃えていて、あと数百メートルのところでした。常磐の方にみんな逃げたのですが、祖母が歩けなかったものから、母から祖母とともに防空壕に入るように言われ、防空壕で不安な一夜を過ごしました。幸い命は助かりました。時折外へ出てみると、岐阜の街が赤く燃えていました。各務原には爆弾を落としたのですが、岐阜市は焼夷弾でした。焼き払うためです。木造の家に人が寝ているところを丸ごと焼くので、焼夷弾は夜なんです。

戦後30年のとき岐阜空襲展開催

「岐阜空襲を記録する会」発足の翌年、戦後30年のとき岐阜空襲展開催しました。6日間で5万人の方が見に来てくれました。当時は戦争体験者や、戦争で家族を亡くした方も多くおられ、涙を流しながら見ている人や昔の人に会えるからと何回も見に来る人もいました。主催者としてほんとうに元気づけられました。

岐阜市平和資料室オープン

多くの市民が犠牲になった岐阜空襲の悲劇を伝え、平和の尊さを考える資料館をつくろうと24団体が集まり、「岐阜市平和資料館をつくる会」(つくる会)を1993年に発足させました。署名運動、市長交渉などを行い、「つくる会」も参加する「戦争・戦災資料収集に関する委員会」をスタートさせました。行政視察として全国各地の資料館に見学を行いました。岐阜市主催の平和展などにも協力しながら、2002年1

月に岐阜駅ハートフルスクエアGに「平和資料室」を開設することができました。「岐阜空襲と戦時下の市民生活をテーマにした常設展示」を中心に「子供たちに伝える平和のための資料展・特別展」などを開催しています。ぜひ一度ご覧ください。

未来への希望

戦後80年、「日本は戦争してこなかった」「戦死者を出してこなかった」という事実が重い。ふたたび「戦前にしてはならない」という思いが続けてきたし、これからも続けていきたいと思っています。昨年1年間で17校から依頼を受け訪問して「平和教育」にかかわってきました。平和を守るのには、「現在の憲法と明治憲法(大日本帝国憲法)との違いを学び、憲法を変えないことです」と伝えていきます。

岐阜空襲

1945年7月9日深夜から10日未明にかけて米軍のB29爆撃機129機から898.8トンの焼夷弾が投下され、市街地を中心にその74%が焼失。犠牲者数は、死者約900人、負傷者約1000人、罹災者約10万人全半壊家屋は全市の半数に及ぶ2万戸。当時の岐阜市人口は174,676人、戸数は39,604戸。(岐阜市平和資料室友の会「岐阜も戦場だった」より)



岐阜市平和資料室のご案内

岐阜空襲後の岐阜市の写真パネル、戦災遺物などが展示されています。詳しくは岐阜市ホームページをご覧ください。